

北海道浮魚ニュース

令和元（2019）年度 24 号

2019 年 11 月 11 日

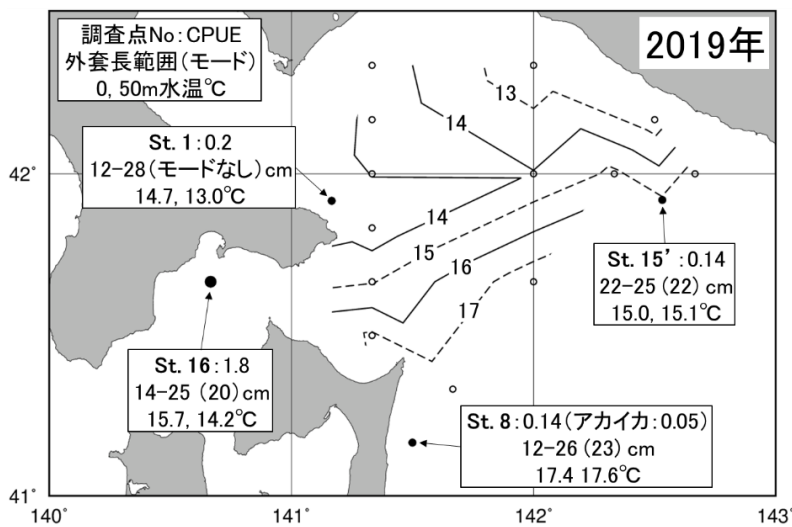
道総研 函館水産試験場

ホームページ：<http://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/central/section/shigen/ukiuo/index.html>

◎道南太平洋スルメイカ調査結果

11 月 4 日～8 日の期間、津軽海峡～道南太平洋で、函館水産試験場調査船金星丸（151 トン、イカ釣機 5 台、集魚灯 20 灯装備）により実施したスルメイカ調査の結果をお知らせします。

- ・スルメイカの平均分布密度は昨年を上回り、過去 5 年平均を下回った。
- ・スルメイカの外套長のモードは昨年及び過去 5 年平均よりもやや大きい。



1. 水温分布 (図 1)

漁獲調査点 4 点の表面水温は 14.7～17.4°C（昨年 16.3～17.6°C）、深度 50 m 層の水温は 13.0～17.6°C（昨年 13.3～17.6°C）でした。

深度 50 m 層の水温に注目すると、昨年と同様に津軽海峡東側から日高沖にかけて、15～17°C の水塊が張り出していました。

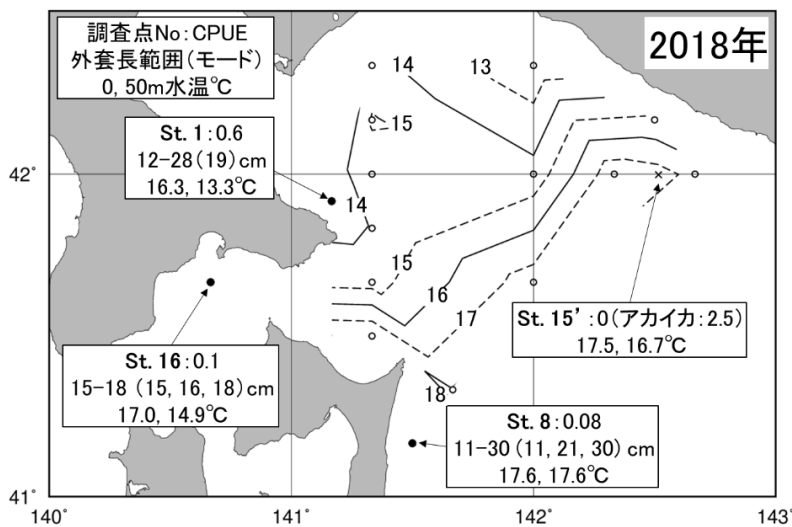


図 1 スルメイカ漁獲調査結果。●は漁獲調査点で大きさは CPUE に比例（1 以下は同じ大きさ）。○は海洋観測点。×は漁獲なしの点。等温線は深度 50m の水温 (°C)。浦河沖では漁獲調査点を移動 (St. 15')。

2. 流向流速分布 (図2)

航行中の ADCP 観測により得られた深度 50 m 層における流向流速と水温分布を照らし合わせると、津軽海峡東側では等温線に沿って北東へ向かう強い流れがあり、津軽暖流が日高沖まで大きく張り出してから南下する渦モードになっていると考えられました。

道総研では北海道周辺海域で、2 ヶ月ごとに 3 隻の調査船を用いて定期海洋観測を行い、海況速報を発信しています。以下の URL にて公開していますので、こちらもご参照下さい。

<https://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/central/section/kankyousokuhou/>

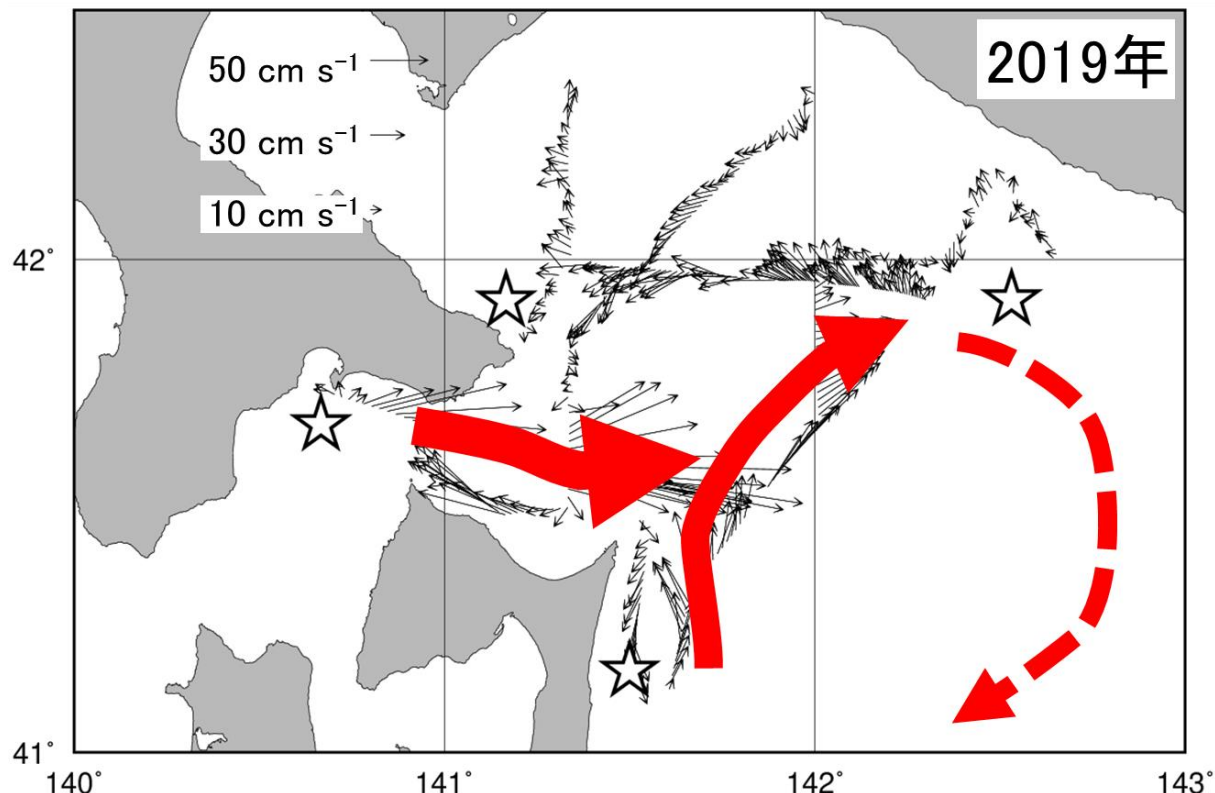


図2 2019年の深度50m層における流向流速(黒矢印)と津軽暖流の模式図(赤太線)、☆は漁獲調査点

3. スルメイカの分布密度 (図1、表1)

漁獲調査点4点のCPUE(2連式イカ釣機1台1時間当たりの漁獲尾数)は0.14~1.83(昨年4点:0.08~0.61)の範囲で、最もCPUEが高かったのは函館沖のSt.16でした(1.83)。漁獲調査を行った4点の平均CPUEは0.58で昨年の平均(0.20)を上回りましたが、過去5年の全4点の平均(1.07)を下回りました。

表1 11月道南太平洋スルメイカ調査のCPUEと外套長の経年変化
過去5年は2014~2018年の平均値または範囲

	2014(H26) 11/11-11/12	2015(H27) 11/11-11/13	2016(H28) 11/7-11/8	2017(H29) 11/6-11/10	2018(H30) 11/5-11/9	2019(R1) 11/4-11/8	過去5年
St.1(木直沖)CPUE	-	0.70	0.07	0.22	0.61	0.20	0.40
St.8(下北半島東沖)CPUE	-	-	-	0.40	0.08	0.14	0.24
St.15(浦河沖)CPUE	10.2	-	-	0.04	0.00	0.14	3.43
St.16(函館沖)CPUE	-	-	-	0.28	0.12	1.83	0.20
平均CPUE(尾/台・時間)	10.2	0.70	0.07	0.24	0.20	0.58	1.07
外套長の範囲(cm)	21-28	20-28	18	11-26	11-30	12-28	11-30
各地点の外套長モード(cm)	25	21	18	12-21	11-30	20-23	11-30

4. スルメイカの大きさ (図1、図3、表1)

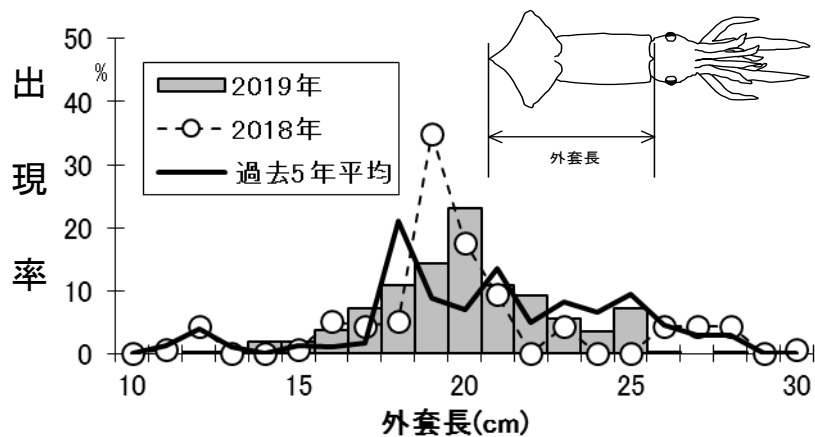


図3 調査海域全体のスルメイカの外套長組成

スルメイカの外套長は12~28 cm (昨年11~30 cm) の範囲にありました (図1、図3、表1)。最も多く出現したイカの大きさ (モード) は20 cm で昨年 (19 cm) および過去5年平均 (18 cm) より大きいサイズでした。ただし大型個体の出現率は昨年および過去5年平均よりも低くなっていました。